

## 日本のリハビリ医療 中国医師2人が学ぶ

富山の西能病院

H26.7.29

富山大医学部と学術交流協定を結ぶ中国・内蒙古医科大学の医師2人が28日、富山市高田の西能病院（増田明院長）で研修を行い、日本のリハビ

リテーション技術を学んだ。日本のリハビリ医療に理解を深め、中国・内蒙古自治区の医療技術向上を目指そうと訪れた。研修医の阿日嘎太さん（35）、劉遵南さん（44）が西能健リハビリ部長に説明を受け、術後リハビリの方法や、手術を行わずに治療する保存

療法について学んだ。病院内を見学し、医療環境も参考にした。阿日嘎太さんは「医師の患者への対応の丁寧さや病院施設の清潔さに驚いた。今回学んだ技術や知識を中国でも生かしたい」と話した。研修は31日まで行う。



リハビリ医療について説明を受ける劉さん（左）、阿日嘎太さん（同2人目） 西能病院

## 中国の医師2人 リハビリの研修

富山・西能病院

H26.7.29

富山市高田の西能病院に28日、中国内モンゴル自治区の内蒙古医科大学からリハ

西能部長から説明を受ける阿日嘎太さん（左）と劉遵南さん（右） 富山市高田の西能病院



ビリ医2人が研修に訪れた。31日まで滞在し、手術後の早期リハビリや保存療法を学ぶ。

訪れたのは阿日嘎太さん（35）と劉遵南さん（44）。2人は西能健リハビリ部長と理学療法士の岡本留美さんが入院患者にリハビリを施す様子に見入り、熱心に質問を繰り返した。阿日嘎太さんは「患者に親身になって接する医師の態度は勉強になる」と話した。

内蒙古医科大学は2001年に富山大医学部と学術交流協定を結んでいる。今回、内蒙古医科大学から西能病院を運営する特定医療法人財団五省会の鏡森定信評議員（富大名誉教授）に研修受け入れの要請があり、費用は富山市の会社役員高野博氏の基金で賄った。